

現状維持（15名） 古川 理沙

表2 人口段階別にみた市議会議員の実数の状況 (令和5年12月31日現在)

人口段階	市区数	1市あたり平均(人)
5万人未満	300	16.5
5～10万人未満	235	20.1
10～20万人未満	148	25.0
20～30万人未満	48	30.5
30～40万人未満	30	36.1
40～50万人未満	19	39.2
50万人以上	15	45.5
指定都市	20	58.2

市議会議員定数に関する調査結果 全国市議会議長会（令和6年4月）より引用

現在の市議会では・・・

「議員と語ろう会」や産業感謝祭でのアンケートも「お聞きする」だけでなく、結果や自由筆記のご意見に対し、どのような対応するかを協議したうえで、それぞれの委員会で協議し、質問については市議会だよりでお伝えしたりしています。

それぞれの委員会での協議結果は、執行部に対し「政策提言・提案」するサイクルで活動をし始めています。

わたしの考え

前回のアンケート → 現状維持もしくは1名減
今回のアンケート → 現状維持

以前は、若い世代のなり手を考えたとき、定数を減らし、その分、報酬を上げるという考えのもと、現状維持か1名減か迷っていました。

定数を減らす議論は、①予算の課題②議会への信頼度によるものと認識しています。

議会活動をしっかり見える化し、成果を上げ、市民の皆さんが「議会がしっかり機能している」と感じていただくことが何より重要であると考え、数ではなく質を基準に熟考しました。

地域が多様な人（年齢、性別、職種、専門性など）の集まりであるのと同様、市民の皆さんの意思決定を行う場（議会）も多様な人で議論を尽くすべきです。

市民の皆さんの代表として意思決定には、議会の協議内容を市民の皆さんにフィードバックし、市内全域で皆さんの声をしっかりお聞きできる仕組みづくりが必須であるとの考えから、定数は現状維持としました。